

取組の背景

根室地域エゾシカの生息密度上昇や嗜好性の変化により植栽木の被害拡大が懸念され、成林の遅れや枯死による再造林経費の増大が想定されることから、エゾシカによる植栽木被害の低減を図る方法として、忌避剤による効果的、効率的な散布方法を検証した。

取組の内容・成果

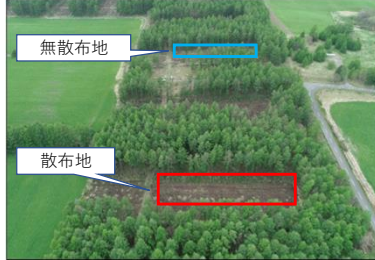
試験地概要

箇所：別海町国有林 1126そ林小班 面積：7.76ha
植栽年月：令和4年9月 植栽面積：2.45ha 植栽樹種：カラマツ（コンテナ苗）
植栽本数：7,500本（3,000本/ha） 植付仕様：植付12列 列間 2.50m 苗間 1.31m



調査方法

植栽箇所のうち、エゾシカの痕跡（獣道、フン）が見られた3列を選定し、散布回数等パターン変えて忌避剤（商品名：ランテクター（全卵粉末成分））を散布し、被害調査を実施した。また忌避剤の効果を検証するため無散布地を設定し、効果を検証した。



散布パターン

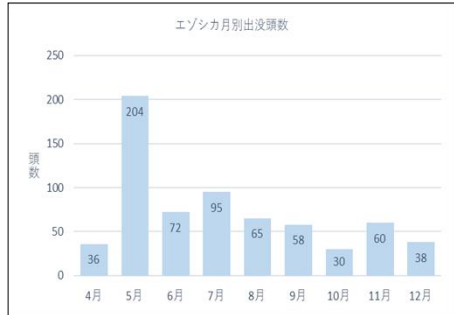
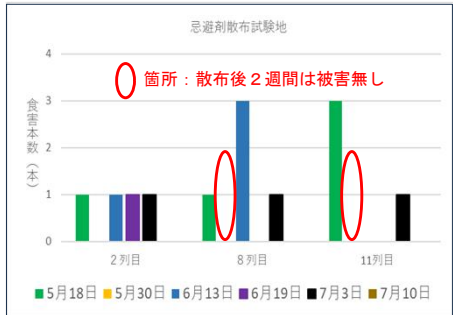
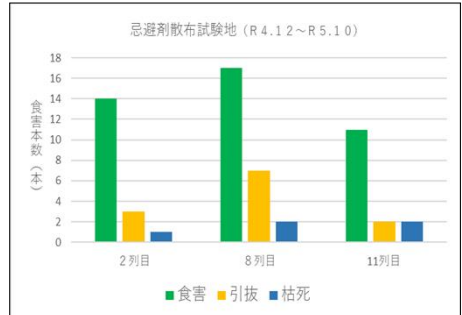
	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2列目	●		●			
8列目	●				●	
11列目	●		●			●

忌避剤散布：●

【散布パターンについて】効果的な散布時期を検証するため、3つのパターンで調査を実施。散布時期は、発芽（5月）、新葉成長（7月）、エゾシカ越冬前（9月～10月）を設定。

調査結果

5月の忌避剤散布以降、無散布地では食害が9月下旬まで見られたが、散布地では散布後2週間は被害が見られず、7月以降出沒は確認されたが被害は無かった。また、自動撮影カメラによりエゾシカの出沒状況を検証した結果、5月が突出して出沒しており被害発生時期と重なっている。



中間考査

調査した結果、草本類が繁茂する6月下旬頃から食害がほぼ無くなることが判明した。このことから、**忌避剤散布時期については植栽直後が効果的**と推測される。

今後の展開

今年度はすでに被害を受けた箇所での調査となったが、次年度は忌避剤効果の検証精度を上げるため、春植栽直後から検証していく。検証にあたっては効果的な薬剤の種類、濃度、回数、時期等を引き続き検証していく。